

みみタロウ

日本語版 ☆ 113号 2015年8月

滋賀県国際協会ボランティアグループ「みみタロウ」
おとしはま びあき おうみ
大津市におの浜 1-1-20 ビアザ淡海 2F
Tel/Fax : 077-523-5646
E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp
URL : http://www.s-i-a.or.jp
Facebook : https://www.facebook.com/siabiwako

海外ビジネスへ出航!

今回みみタロウは、みやび建設株式会社(近江八幡市)を訪れ、坂田透社長とグローバル事業部に所属するパブロ アランゴ アルバレスさんからお仕事についてのお話を伺いました。



坂田社長 と パブロさん

坂田社長 みやび建設は、戸建てを中心に展開する建設会社です。将来における世界ビジネスへの参入を見据え、2007年より様々な国の若者を

研修生として受け入れています。そして2010年には建設会社の業務としては異質なグローバル事業部を設け、ここに現在、コロンビアから来たパブロさんと2名の中国人の若者が勤務しています。

本来建設会社である我が社には、貿易の経営資源はありません。レールも羅針盤もなく、この3人の若者が世界の大海原に漕ぎ出し、市場を開拓しています。世界に出ると土地ごとに日本と異なる様々なニーズがあります。商品も最新の製品がいいという訳でもなく、それぞれの土地に合ったものを提供することが大切。かつて近江商人は藩から藩へと必要なものを届けて商売をしましたが、そのパイオニア精神を国際感覚に優れた彼らが海外で発揮してくれることを期待しています。社内の風景も、彼らを迎えたことで随分変わりました。当初、緊張していた職員たちも、今では普通に英語や中国語が飛びかう中で働いています。お互いの文化がぶつかり、それぞれいいと思うこと、悪いと思うことが当然ありますが、それをお互いが知ることで新しいものを生み出すと考えています。文化はそこにいる人が作るもの。経済力だけでなく、文化を備えた町が昔も今も輝きを失わないように、様々な文化を組み込んで魅力ある会社にしていきたいと思っています。

パブロさん メイドインジャパンのバイクや漫画、ゲームなどに囲まれて育ち、日本は行ってみたい憧れの国でした。大学では貿易を専攻しましたが、夢を叶えるために日本語も勉強。特に日本の耐震工事に興味があり、NPOアイセックを通して日本の建設会社で研修するこ

とにしました。みやび建設での研修は、建築のイロハも知らない僕に、一つの建物の現場監督をまかせるという大変ユニークなもの。解体、地盤改良から建物の完成に至る全行程について体験させていただきました。6ヶ月の研修を終えて帰国して大学卒業後、今度は正社員として来日して4年になります。今はカンボジアへの中古農機具の輸出を扱っており、またこれからのプランで頭がいっぱいの毎日です。

日本の会社で印象的だったのは、行動する前の会議が長いことと仕事のスピードの速さです。何度も話し合いを重ね、「あれ、またその話?」と思ったりすることもあります。一旦決まれば、みんな同じ方向に向かって行動は早い。これにはびっくりしました。それと時間厳守。1分のことで電車に乗り遅れてしまうと、行く先々であやまることになります。また、誰もが手帳を持ち、一週間先、一ヶ月先の長いスパンで時間を管理しますが、これもあまり計画を立てない南米の人にはない習慣ですね。自分だけでなく人の時間にも気を遣い、時間をうまく管理することで仕事の流れも良くなります。その他、日本の会社では、自分のことより仕事優先にする人が多いですね。個人的には、パソコンの修理やスケボーなど趣味が沢山あるので、仕事と趣味のバランスに悩むところ。いつか好きなことが仕事と結びつくことを願って、まずはやるべきことをきちんとやり、良い仕事を積み重ねていきたいと思っています。

大学時代、世界で使用者数の少ない日本語を勉強することを友人に不思議がられたりしたのですが、僕は、こんなふうには日本ですばらしい経験をする事ができて、神に感謝しています。日本では滋賀弁をはじめ、様々な文化的な違いにぶつかることもありますが、文化はこの土地の人々の永年の日々の積み重ねによりできたもの。これと闘うことなどできません。サバイバルするためには適応あるのみです。まだまだ足りないことだらけですが、日本への理解を深め、これからも努力していきたいです。